

野外活動経験によって社会人基礎力は身に付けられるか

—野外スポーツ愛好家を対象とした質的アプローチ—

堀 大輔(生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)

指導教員 林綾子

キーワード：野外活動, 社会人基礎力, SCAT

1. 序論

近年、離職率の高さが社会問題となっており、内閣府が発表したデータ(2011)によると大学卒業生の約3割が3年以内に離職している。その原因のひとつに学生の能力と企業の求める学生の能力とのミスマッチが考えられ、そういった背景から社会人基礎力が今、企業から多くの注目を集めている。「社会人基礎力」とは経済産業省が提唱しており「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力から構成されている(2006)。キャンプ活動等による社会人基礎力への効果を示した文献は多くあり、江口等(2012)の研究によると、キャンプへの参加が社会人基礎力を向上させることに有効であるという結果が出ている。これからみても野外活動によって社会人基礎力は育成されるのではないかという推測が立つ。しかしどのような活動を通して、どのように「社会人基礎力」を身に付けたかなど具体的な部分に焦点を当てて明らかにしたものはない。

よって本研究では、野外スポーツ愛好家は野外活動によって社会人基礎力をどのように身に付け、どのように社会で活かしているのか、質的なアプローチから分析し、明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

登山、クライミング、カヌー、スキーなど各々に活動を行う野外スポーツ愛好家6名(男性4名、女性2名、平均年齢42歳)を対象とした。

データ収集は半構造化インタビューの手法で行い、分析には大谷(2008)が作成したSCATを用いた。SCATでは言語データをセグメント化し、それぞれをデータの中の着目すべき語句、それを言いかえるためのデータ外の語句、それを説明するための語句、そこから浮き上がるテーマ・構成概念の順にコードを考案して付していく4ステップのコーディングを行い、それをもとにストーリーラインと理論記述を作成した。

3. 結果と考察

本研究の結果を図1にて示した。本研究の結果として、野外スポーツ愛好家は野外活動にお

いて目標達成に向けた課題解決プロセスを体験することによって、主体性、実行力、計画力、課題発見力を身につけていることが考えられる。また、グループで活動を行っている野外スポーツ愛好家は、仲間の安全のための状況把握や安全のための計画立てを行うことによって、状況把握力、計画力を身につけている。最後に、野外スポーツ愛好家は目標達成のためのリスクを伴った野外活動によって、ストレスコントロール力を身につけていると考えられる。

社会の場でも野外活動と同様に主体的な取り組みによる課題達成や課題達成までの段階的計画立て、状況把握による周囲への気配りや仕事でのストレスコントロール等に野外活動で身につけた社会人基礎力は活かされている。

4. まとめ

本研究では野外活動において目標達成に向けた課題解決プロセスを体験することによって主体性、実行力、計画力、課題発見力を身につけていること、安全の為の状況把握や安全の為の計画立てを行う事によって状況把握力、計画力を身につけていること、目標達成のためのリスクを伴った野外活動によってストレスコントロール力を身につけていること等が明らかとなった。これを基に達成困難な課題を取り入れ、分析による課題発見など課題解決プロセスを体験させる事ができれば教育材料として野外活動を有効に活用できるのではないか。

本研究では傾聴力等の能力においては、少数のデータしか得られず能力と社会人基礎力との関係を明らかにすることができなかった。そのため対象者を増やし幅広いデータを得る必要がある。

参考文献

- 経済産業省(2006)社会人基礎力に関する緊急調査
- 大谷 尚(2008)ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCAT の提案—着しやすくと小規模データにも適用可能な理論化の手続き—名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要。教育科学:27-44.
- 江口・粥川道子・杉岡品子(2012)キャンプ体験が大学生の育成に及ぼす効果に関する研究。北翔大学生涯スポーツ学部研究紀要:27-39.

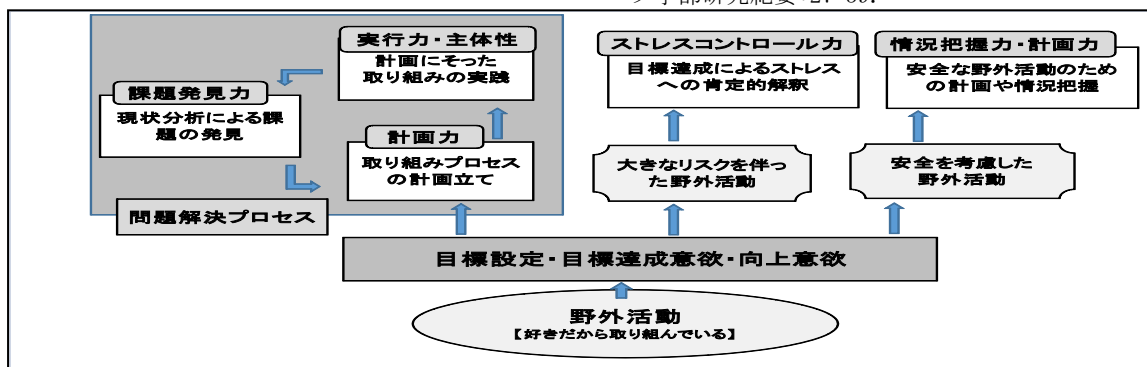


図1：野外活動を通じた社会人基礎力育成のプロセスモデル